

2018年度岐阜中ロータリークラブ—ANAK-NC 報告会 議事録

日 時：2018年11月10日(土) 12:00～14:15

場 所：フィリピン イロイロ市、イロイロ・リッチモンド・ホテルにて

参加者：岐阜中ロータリークラブ 6名：会長 長井義夫様、森井脩次様、安藤元一様、田邊雅範様、柴田一生様、渡辺成洋様

ANAK-NC 7名：ウェンデリン・ブランディーノ、ナンシー・カカヨリン、アレキサンダー・ヒナイ、クレゼンシア・サナット、ダニーロ・マヒナイ、マリアン・B・アンビンガン、ルース・バルガン

アジア保健研修所 (AHI) 1名：高田弥生

I. 背景・経緯

AHI とニューコレリア町の関係は 1999 年に始まった。ダバオ市の NGO・ダバオ医科大学 プライマリーヘルス研修所がニューコレリア町で町行政と連携して住民参加型の地域開発をすすめるのを、AHI が支援した。このプロジェクト終了後、AHI の国際研修に参加した人たちが中心となって ANAK-NC を結成。2011 年から生活習慣病予防の啓発活動を開始。一部の地域住民は、食生活の改善や日常的な運動に取り組むようになり、従来、学校行事として行っていた健康祭りも村の行事として定着した。今年度、AHI と ANAK-NC はこれまでの活動を振り返り、今後の方向性、重点課題等を協議している。新たな活動の一つとして挙げられているのが、有機家庭菜園の普及である。

岐阜中ロータリークラブの支援は 2013 年に始まり 6 年目を迎えた。1、2 年目はニューコレリア町、3 年目はダバオ市で会し、血圧計を寄付していただいた。4 年目以降ミンダナオ島への渡航を控えるよう外務省が勧告していることから、現地訪問は行わず、啓発活動に使用する広報物や教材の制作費を支援していただいた。6 年目となる今年は、イロイロ州ビンガワン町で複合的有機農業の研究と普及に取り組むコニー・カリロさんの試験農場を視察した。

II. 視察報告

コニー・カリロさんはビンガワン町農民協会連合の代表。小規模農家＝貧しい人たちが容易に取り入れることができる、低コストで持続可能な技術の開発と普及に取り組んでいる。これら活動によって“2018年 活躍する女性—西ビサヤ”に選ばれた。

コニーさんが推奨する複合的有機農業は、穀物・野菜の栽培だけでなく、家禽（鶏・あひる・うずら）・家畜（豚）・魚の養殖、もみ殻・家禽・家畜の糞・養殖池の泥など、栽培・飼育の副産物をたい肥として活用すること、伝統的な品種の保存、水の循環利用を含む。

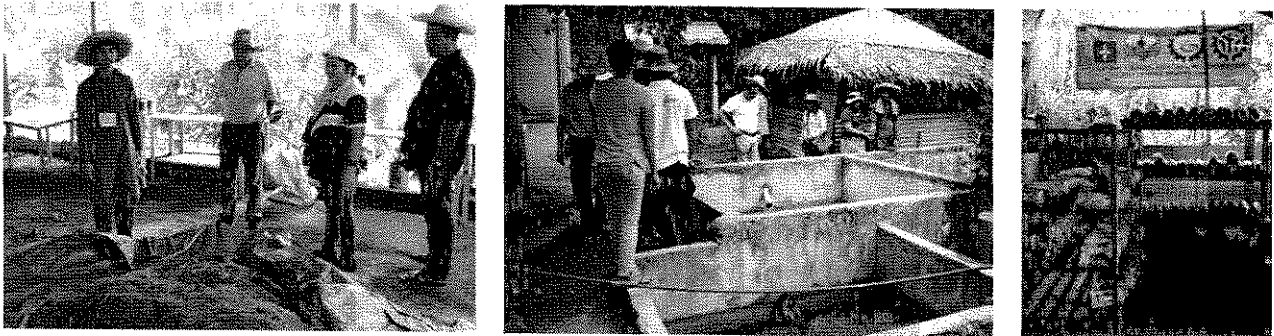
試験農場はこれらの手法を学ぶ職能訓練学校にもなっている。

29 日間の研修を修了して試験に合格すれば、有機農家として農



業省の認定を受けることができる。ワールドビジョン、YMCA など NGO から支援を受けており、奨学金制度がある。宿泊費・研修費は無料となるため、ビンガワン町の外からも多くの若者が学びに来る。ビンガワン町内の小規模農家に対しては、知識・技術が無償で共有・伝授している。

アグロツーリズムも受け入れ、一般の人たちに農業体験や農産物を用いた食品づくり、自然素材を用いた工芸品づくりの体験を通して、環境問題や有機農業への関心を高めてもらう機会としている。



視察の様子（左から、豚舎用のもみ殻床づくり、ナマズ養殖、キノコ栽培）

Ⅲ. ニューコレリア町での応用の可能性

- ① ヘルシーライフスタイル啓発ボランティアの研修プログラムの中に有機農法に関する講義を一コマ設けたい。そのために、町の農業課、すでに有機農業を行っている農家との連携していく。
- ② すでに有機家庭菜園（野菜栽培）を行っている啓発員がいる。啓発員ではないが有機家庭菜園を行っている人もいたので、彼らを啓発員として勧誘する。啓発員であるなしに関わらず、現在、有機家庭菜園を実施している世帯数を把握し、今後、その変化をモニターしていく。
- ③ ANAK-NC メンバーで兼業農家であるダニー、ロロイ、マリアンの3名が率先して、複合的有機農業（穀物・野菜栽培だけでなく、家畜飼育を含む）のデモンストレーションを行う。
- ④ 将来的な計画として、ニューコレリア町内にある高校でも小規模な試験場をつくって、学生らが学ぶことができるようにしていきたい。農家の子どもが実践のための知識や技術を学ぶだけでなく、有機農場が校内に存在することが、若者を広く啓発になる。町内には公立高校が5つ、私立高校が3つあるが、現在、ヘルシーライフスタイル推進事業においてこれらの高校との連携はないので、新しいアプローチとなる。

上記に関する岐阜中 RC からの質問と、それに対する ANAK-NC の回答

➤ なぜヘルシーライフスタイル推進事業のなかで有機農業／家庭菜園の普及を行うのか。

有機農作物は栄養価が高いが、割高で一般の人たちには手が届きにくい。そのため有機家庭菜園を普及させることがヘルシーライフスタイル推進につながる。

➤ ニューコレリア町にはどんな特産品があるのか。

バナナ（輸出用、地産用）、穀物（米）、野菜を栽培しているが、地域の名産というほどではない。近年サンホセ村でカカオの栽培が始まったが、生産量は少ない。これらの農作物の一部は有機栽培。

- 有機農業のビジネス化を視野に入れているのか。その場合、土壌改良、害虫対策など時間と手間がかかるが大丈夫か。

有機農業は国策であり、産業としての有機農業の普及をすすめ、その市場を成長させることは町行政の責任であり、住民グループである ANAK-NC の役割は、このような町行政の責任を訴えることだと考える。他方、家庭菜園は個人の営みなので町行政が介入する責任をもたず、これこそが ANAK-NC の働きどころだと考える。

農家が複合的有機農業に移行していくのは、一朝一夕にできるものではない。土壌改良には年月を要するし、害虫や病気への対策と収量の確保を考えれば、農家は慎重にならざるを得ない。それもあって、長年農業を営んできた人でなく、これから農業を始める若者への啓発をすすめることこそが ANAK-NC の役割だと考える。

以上2つの理由からも、ヘルシーライフスタイル推進事業においては、農家よりも一般の世帯の家庭菜園での有機の普及を推奨していきたい。

- 有機家庭菜園の余剰を収入としていくこと、又は、社会的起業の可能性についてはどう考えるか。
将来的にはその可能性を探っていきたい。

(ア) 観光業との連携

ニューコレリア町は北ダバオ州内で観光地として知られる。パナイ滝、2つの洞窟など、自然体験を資源としている。洞窟探検ツアーに含まれる弁当は、地のものを用いたヘルシー弁当にしている。今後、有機家庭菜園の余剰をまわして有機弁当を提供していきたい。

(イ) 町役場の食堂との連携

町役場の食堂(現在改装工事中)にヘルシーメニューを導入することに成功してきた。今後、有機家庭菜園の余剰をまわして有機メニューを増やしてしていきたい。

IV. 岐阜中ロータリークラブへの支援の期待

1. 町が行う有機農業研修への助成。実習に使う資材代を補助してもらえると、研修の実施回数を増やすことができ、そこに ANAK-NC から若者、啓発ボランティアを推挙することができる。

➤ 岐阜中 RC からのコメント：研修＝人材育成は継続的に行うべきものであり、成果が見えにくい。できれば有機農産物の物産展などの成果が見えやすい、プログラム化されたものを考えてほしい。 → ニューコレリア町に戻ってから他のメンバーと協議します。
2. (今回の視察とは関係しないが、) 事業マネジメント、啓発員育成研修に必要な機材である、ノートパソコン、プリンター、プロジェクターの購入費の支援。特にプロジェクターは町行政から借りているが、予定重なって使用できない、活動予定を変更しないことが度々あり、ニーズが高い。